

小中一貫教育で期待される教育



“明日へ”つなげる学びと、ともに、
今日の学びを次の学びへ、そして明日へ、
主体的に学びをつなげる9年間

“思いを”つなげる学びと、ともに、
自分の思いと誰かの思い、その関わりや
つながりで学びを深める9年間

“社会へ”つなげる学びと、ともに、
学校と地域がともに、子どもを支え、育み、
社会とつながり学びを広げる9年間

「夢や希望を持ち、未来をほがらかに生きる子ども」をめざして(めざす子ども像)

SDGs未来都市とよなか

なだらかな9年間の
つなぐ・つみあげるカリキュラム



すべての中学校区で義務教育9年間を見通した
一貫性、系統性・連続性のある教育を充実



豊中市立学校の小中一貫教育の特徴

魅力ある学校づくり・授業づくりをめざして

中学校段階への円滑な接続

- それぞれの校種の良さをいかした生徒指導体制の共通理解
- 連続性のある子ども理解と支援の工夫

学びの連続

- めざす子ども像を目標においた授業づくり
- 9年間を見通した指導方法等の発展的継続

小中一貫教育で子どもたちの教育はこう変わる

○小中の垣根を越えた見守りで安心感が生まれる

- ・15歳の姿をイメージした情報共有
- ・小中一体となった寄り添いの中で安心感の醸成

○9年間のつながる学習指導で子どもたちの学びが丁寧に見える

- ・小中学校がめざす子ども像を共有
- ・9年間での教科や領域の系統的な教育活動
- ・学びを将来や社会へつなげる支援



*説明は次ページへ

* 小中一貫教育で子どもたちの教育はこう変わる(説明)



こどもたちについて話し合う小中学校教職員

小中の垣根を越えた見守りで安心感を生み出します

小中一貫教育の中では、**15歳の姿をより具体的にイメージ**し、子どもたちが**安心・安全**にすごせるよう、これまで以上に**小・中学校が一体となって取り組み**ます。子どもたちの学習面や生活面などの情報を共有することで、子どもたちは周りの大人の**寄り添いの中で安心して中学校段階をスタート**できます。また子どもたちは、校種や学年を越えた交流を行うことで、新しい生活への期待が持てたり、よりよい人間関係を築いたりすることが期待できます。

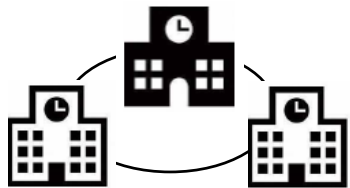
9年間のつながる学習指導で子どもたちの学びを丁寧に支えます

各中学校区の**小中学校がめざす子ども像を共有**し、付けたい力を決めていきます。また、付けたい力をもとに系統化された授業を行うことなどをおして、**9年間を見通したきめ細かな学習指導**をおこない、子どもたちの学びを確実に積み重ねます。さらに、学校によっては独自カリキュラムに取り組む場合もあり、より地域や学校ごとの特色にあわせたカリキュラム作りに努めていきます。このように9年間での教科や領域の系統的な教育活動をおして、子どもたちが興味・関心をひろげ、**学びを自分の将来や社会へ**とつなげていけるよう支援していきます。



義務教育学校 庄内さくら学園

- ・豊中市初の義務教育学校としてR5年度、旧庄内 小・六中跡地等に開校
- ・独自カリキュラムSDG（庄内大好き元気）の取組み
- ・さくら応援団の充実
- ・庄内コラボとの連携



- ・R6年度は、各分科会に分かれて小中一貫の体制づくり
- ・千里みらい夢学園（施設分離型小中一貫教育校）の学園長を招聘し合同研修を開催
- ・「探究学習」をテーマにカリキュラムづくりを検討を開始

小中一貫型小中学校（学園制）
第八中学校区
（第八中・北丘小・東丘小）

- ・2校に共通する『めざす子ども像』実現に向け、特色ある教育活動で、自尊感情や自己肯定感・自己有用感・非認知能力を伸ばす特色あるカリキュラムを編成
- ・3ステージ制＊を導入し、9年間の接続をなめらかに

＊学年段階を「4年・3年・2年」の3段階に区切り、各段階ごとに教育活動の工夫・充実を図っています。

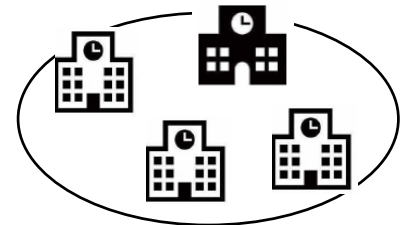
【豊中市における小中一貫教育推進のスケジュール】

	R5	R6	R7	R8
庄内さくら学園	義務教育学校開校			
庄内よつば学園	校区グランドデザインの作成 （庄内南小・千成小同居）	開校に向けた連携体制づくり等		義務教育学校開校
第八中学校区	子どもの実態の共有	校区グランドデザインの作成	開校に向けた連携体制づくり等	小中一貫型小中学校（学園制）開校
上記3校区以外の校区	準備期	導入期	推進期	充実期

- ・小中一貫校としての名前（学園名）を検討

義務教育学校 庄内よつば学園

- ・義務教育学校としてR8年度、旧千成小・せんなりこども園跡地に開校予定
- ・めざす学校像は、「つながりを大切に、自ら学び未来をつくる学校」
- ・標準服や校章は子どもの意見を聞き検討中



- ・R6年度は、各校の小中一貫教育担当者は校内状況をふまえつつ首席または指導教諭が担うこととし、管理職とともに校内の研究・実践をコーディネート
- ・小中連携会議・合同研修などでさまざまなテーマで話し合いを重ね、小小・小中の連携を深める
- ・各校区での特色ある学校づくりやカリキュラム・マネジメントの推進

3校区以外の中学校区